

第七十一回 漫才の「嘘」と『M-1』再び



一線を越える  
ウマとシカ。

弦楽器イルカ  ⇔ 友人



# 目次

|  |   |
|--|---|
| 第七十一回 漫才の「嘘」と『M-1』再び～G から U へ～ . . . . . | 1 |
|--|---|



## 第七十一回 漫才の「嘘」と『M-1』再び～G から U へ～

前の M-1 の話、「今回は面白かった」って U に言われたから、あんまりしない野暮な読解をしようと思う。今回も面白かったって言われるようにね。

お笑いでもスポーツでも、一視聴者が「面白かった」「つまらなかった」って感想言うのはもちろん当然だと思う。ただそこから先、何かを論じようとするなら、ただの感想を事実と混同しないほうがいいだろう。

さや香の漫才は二本目が下ネタ入った時点で優勝はないと思ったんだけど、あの漫才が優勝するには二つの難点がある。

一つ目は「嘘」、二つ目は「交代のために下ネタを避けられなかった」という点だ。

まず、一つ目の「嘘」について。これは前に書いた演技と重なる話だ。

さや香の漫才は、一本目は「免許返納した」、二本目は「一回やった」「キスは誰とでもできる」の部分が嘘だった。

でも別に漫才の嘘が悪いと言ってるワケではない。

これがコントだったら「若いのに免許返納する変な人」「一回やっても男女の恋愛は成り立つと言い張る変な人」「誰とでもキスする変な人」という設定だと、脳が判断するだけだ。

だが漫才はまず名乗りの挨拶から始まるから、嘘の話が出た時点で「実際は違うけど、ネタのために演技をし始めたんだな」と脳が再認識する必要がある。

漫才の場合、そこでネタの信ぴょう性が少し弱まる。嘘を膨らませるだけでは、それを上回る本当の話を出さないと話の強度を保てない。(前にインディアンスの「わざとセリフを囁むネタ」を観た時、この嘘を強烈に感じた)

「夢の話は(何でもありだから)ネタとして弱い」と言う審査員もいたけど、その割にさや香の嘘については無自覚に審査してたから、結局審査員でさえ「自分が今何を観ているのか」よくわからないまま点数をつけてる。そのくせ、漫才をストップウォッチで測るって一番コメディだと思うんだけどね。

だから信ぴょう性を保つために、漫才は「嘘」ではなく「誇張」して話すのが普通だ。

「すごく家電が好きな変な人」「過剰に妬みと偏見を語る人」「とにかく偉そうで気持ち悪いピンクの人」とか、自分の中の1を100に誇張する。それは「嘘」ではなく「誇張」だから、「ギリギリいそうな人」「本音を言いすぎてる人」「気持ち悪いだけで無害なピンクの人」という信ぴょう性のラインを保てる。

このラインを（三苦の）一ミリでも残せれば、今回のウエストランドのように「笑いを抑えようとしても笑ってしまう審査員」という現象を起こすくらいの強度を保てる。

つまり漫才の中で「嘘」をつく場合、それよりも強い「本当」を入れないと、今回のように「誇張」の強度に負けるんだけど、俺が読んだ限りでは特に誰もそれを言っていないので、笑いの学校とか基本的に嘘だと思うよ。

次に二つ目の、「交代のために下ネタを避けられなかった」点について。

「男女の恋愛は成り立つか」の議論で、「一回やっても友情は成り立つ」って話から、実は「やったのはキスだった」ってオチにつながるんだけど、そこが（大物作家が言うところの）「チープトリック」だった。ここは俺の感想だけど、ちょっとがっかりした。

ただ、このオチから「キスなんて誰とでもする」って流れになって、そこでツッコミとボケの役割が交代する。この交代がさや香の評価されてる新しい部分なんだけど、これって実は東京03の「豊本を他の二人が説教したら、実は一番ダメなのは角ちゃんなのに気づく」ってコントと一緒に思う。どんだけの人がそこに気付いてんのかな。

結局、その入れ替わる展開に持っていくために、「男女の友情は成り立つか」って話を選んだだけだから、目的と手段が逆転してる。これもネタの信ぴょう性を下げる難点の部分だ。

そして最も重要なのは、下ネタを回避するには、「一回やっても友情は成り立つ」から「やると言ってもキスだけど」までの流れを時間かけず最短距離にしないといけないのに、それができなかった点だ。なぜか。

ツッコミとボケの交代という展開を入れたかったからだ。ただそのために払った犠牲は、優勝を逃すというオチだった。

こういうの、ほとんど誰も言ってないよね。

無自覚に「感想を分析と勘違いしてる人」は、せめて「自分の偏見だけど」って枕入れてから語ってほしいし、お笑いの学校で教えていることはたぶんこれ以下なんだと思う。ここ完全にウマシカな偏見ね。

んで、さや香がどうすれば優勝できたかって話なんだけど、まずイケメンだよね。お笑いではかなり不利だと思う。

あとこれは俺の好みだけど、「一回やった」は「セフレでも友情は成立する」って（相席スタート山添ばりの）クズ話に持って行ってほしかった。それは「嘘」ではなく「誇張」だから。

「一回やったら友情は成り立たんやろ。ってか男女の友情って、そもそも一回やったヤツは除外されとるやろ」

「それ一回やった差別やろ！ 同じ人間を一回やったかどうかで差別するんか！ 一回やって、全部見せあい、何も無い。それが本当の男女の友情やろが！」

「それはただのセフレや！ セフレの友情で一句読むな！」

「セフレこそ信頼がなきゃできんやろ、セフレに友情はないんか！ セフレのフレは、フレンドのフレやろが！」

「セフレのフレはフレンドのフレでも、セフレのセは一線超えとるセやろが！ M-1の晴れ舞台でセやフレや連呼したら一線超えることくらいわかれや！ 優勝ないぞこれ！」

「M-1の一線なんて、セフレのフレのためならナンボでも超えたるわ！ 優勝もウエストランドにくれたる！ 俺はセフレとの友情を信じる。フレ、フレ、セ・フ・レ！」

「…セフレ、ナンボのもんじゃ！ フレ、フレ、さ・や・香！」

「お前……」

「俺はまだ諦めん！ 俺はお前との優勝を信じる！」

「すまん、俺はお前との優勝よりも、セフレとの友情をとってしまった」

「まだ終わってない！ セフレとでは漫才できひんやろ！」

「すまん。一回やった」

「セ一回だけじゃなく、漫才も一回しとるんかい！」

「でも、セフレと友情は出来ても、漫才はやっぱりあんたとしか出来へんわ」

「せやろ。じゃ、もうええわ」

「どーもー、ありがとうございました」

これが「嘘」ではない「誇張」による、ウマシカが考える「本音」の漫才ね。

でも完全シモだから優勝可能性ゼロだね。

ちなみに最近「猫のサブスク」とかって叩かれてるけど、これも宗教と一緒に、そもそも国の制度に欠点があるって話だよ。猫のストレスが」って問題は分かるけど、一番は虐待する人と、猫を増やし過ぎる業者や制度に問題があるんであって、そこを見直すのが優先だろう。

何より、福島の子供が甲状腺ガンで苦しんでる複数の手記が無料で見れるのに、同じ国の人間の子供の苦痛よりも猫のストレスをあーだこーだ言う時点で、全員偽善者だと俺は思う。

もちろん、善悪なんて存在しないって前提で「偽善」って言葉をわざわざ使ってるけど。

ウマシカは同じ話を10年かけてやって来れたから、俺としては当初の目的通りやれたと思う。

あと、毒舌漫才とか言うけど、金にも話題にもならず自家中毒を起こすウマシカ毒に比べたら、テレビの中の毒舌なんてただのビジネス毒だと俺は思う。それは芸人自身が最も自覚して戦略的にやってるはずだしね。

まあ核心には触れずに、責任のない話題でボヤ祭りしたいのが世間だからね。

自分の身は自分で守らないと守れないし、他人を自分事として巻き込むにはどうするか考えて動かないと、見捨てるのが他人だ。

今回は書いたね。こんな感じ。

どうかな？







---

考えるウマシカ～第七十一回 漫才の「嘘」と『M-1』再び～

---

著 弦楽器イルカ

制作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---